

課題にお金を出すだけでなく、それ以外のところにも投資しておくことが、いつかは役立つことになる。

- ・基礎研究を大切にすることが重要である。
- ・基礎研究と政策的な研究の仕分けが課題である。
- ・一本釣りとは公平性の問題が難しい—アルトホフの時代は、研究者の数少なかったので、見えていたのではないか。
- ・効率性と公平性は相容れないところがある。機会の公平は必要だが、それは結果の公平ではない。
- ・好き嫌いはぬぐいきれない。その意味からも、ファンディングソースの多様性が必要。
- ・環境研が中心となった新しい環境科学の発信、気象研が中心となる新しい共同研究等が必要なのではないか。
- ・これだけ多くの方が、特に若い人も集まってくれたことは、大いに可能性があるということ。若い人がどんどん議論できる場、コミュニティーを作る必要があろう。

まとめコメント：

真鍋淑郎（地球フロンティア研究システム）

今日、皆様のお話を聞いていますと、色々なキャッ

チフレーズに気がつきました。例えば、日本の研究者は“世界最高水準の研究をすべきである”、“世界的なリーダーシップをとるべきである”、“国際的な競争力をつけるべきである”、“世界のトップレベルの研究をしなければならない”といった事を強調されたと思います。21世紀に向けてこのようなゴールの達成が我々研究者にとって最大の課題になると思います。もうひとつは多様化ということ。新しい研究分野の開発がこれから必要不可欠になって来る事は疑いを入れません。例えば、環境科学のような問題は境界領域の問題が多い。このような境界領域の研究を盛んにする必要があるでしょう。

こういったことを実現するために必要なことは競争原理の導入です。そのためには研究評価システムを強化してはどうかと思えます。評価によって研究に多様性をもたせ、優秀な研究にお金が出る様にする。そういった Peer Review を本格的にやる米国の National Science Foundation の様な機関を文部省、科学技術庁が一緒になったときに作る事が望ましい。21世紀に向けて環境問題等、重大問題が我々の前に山積みしています。この種の問題を解くには競争的協力態勢を築く事が必要だと思えますが如何でしょうか？



## 財団法人神奈川科学技術アカデミー 平成13年度研究助成（第一段階）募集のご案内

### 1. 助成の趣旨及び方法

意欲ある若手研究者が自発的に計画する、神奈川県民及び神奈川県内産業への寄与が期待される先端的科学技術分野の創造的基礎研究に対して助成を行う。

### 2. 助成対象研究課題

研究課題が、神奈川県民及び神奈川県内産業への寄与が期待され、科学技術発展のためのシーズとして大切な創造的基礎研究であり、企業利益を直接の目的としないもの。

### 3. 助成対象者

神奈川県内在勤又は在住の若手研究者（おおむね40歳以下）で、勤務先の承諾を得られる方。

### 4. 助成対象の経費

研究に要する物品購入費、旅費、その他必要な経費。

### 5. 申請の方法

詳しい申請方法と申請用紙は気象学会事務局にあります。また <http://home.ksp.or.jp/kast/> からダウンロードできます。

申請書送付先：

財団法人 神奈川科学技術アカデミー  
教育交流部交流普及課

〒213-0012 川崎市高津区坂戸 3-2-1 KSP 西棟 6F  
Tel : 044-819-2032 Fax : 044-819-2097

提出期限：2001年4月10日（火）必着